

社会資本総合整備計画 中間評価書

平成 26年 3月 31日

計画の名称	1 石川の歴史・文化・自然を活かし、地域活性化や豊かな暮らしを実現する公園計画									
計画の期間	平成22年度 ～ 平成26年度 (5年間)			交付対象	石川県					
計画の目標	本県固有の歴史・文化や自然を活用した県営都市公園の整備と安全安心対策や施設の充実などによる利用環境の向上により、交流人口の拡大を図り、地域の活性化を促すとともに、豊かで潤いのある県民生活の実現を図る。									
計画の成果目標 (定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢城公園入園者数をH21年度比15万人増加 (交流人口拡大＝観光振興・都心部活性化の指標として) ・都市公園来園者満足度を90%の大台乗せ (安全安心事業等、公園の充実に対する指標として) ・重点的に整備する白山ろくテーマパーク・能登歴史公園利用者を1.5倍に増加 (新たな園地整備の指標として) 									
定量的指標の定義及び算定式							定量的指標の現況値及び目標値			備考
							当初現況値 (H21年度)	中間目標値 (H24年度)	最終目標値 (H26年度)	
① 金沢城公園における入園者数を測定する。							101万人	108万人	116万人	
② 県営公園10公園 (粟津公園、木場潟公園、松任海浜公園、手取公園、犀川緑地、奥卯辰山健民公園、北部公園、健民海浜公園、西部緑地公園、本多の森公園) の利用者に対する満足度を測定する。							87%	89%	90%超	
③ 対象2公園 (白山ろくテーマパーク、能登歴史公園) の合計入園者数を測定する。							4万人	4万人	6万人	
全体事業費	合計 (A+B+C)	6,930百万円	A	6,458百万円	B	0百万円	C	472百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	6.8%
中 間 評 価										
○事後評価の実施体制、実施時期										
中間評価の実施体制							中間評価の実施時期			
石川県において評価を実施							平成25年度			
							公表の方法 石川県のホームページで公開			
2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況										
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況			<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園の整備事業については、整備途中の段階であり、目標である交流人口の拡大、地域の活性化にはつながらなかったものの、計画最終年度には、各公園での新たな施設の完成共用を予定しているため、入園者数の増加が見込まれ都心部の活性化につながると想定される。 ・都市公園の安全安心対策として、老朽化施設の更新や公園施設のバリアフリー化等の事業を進めた結果、公園利用環境の向上図られ、豊かで潤いのある県民生活の実現につながった。 							
II 定量的指標の達成状況		指標① (金沢城公園における入園者数)	中間目標値	108万人	目標値と実績値に差が出た要因	H23～24年度は、東日本大震災の影響や天候不順等の外的要因により、H24年度末93万人と入園者数は目標に届かなかった。H26年度末には、橋爪門、玉泉院丸庭園が完成共用する予定であるので、新たな施設が増えることにより公園全体の魅力向上に寄与し入園者数の増加が見込まれる。				
			中間実績値	93万人						
		指標② (県営公園10公園の利用者満足度)	中間目標値	89%	目標値と実績値に差が出た要因	利用者満足度については、H24年度88%と中間目標値 (89%) には届かなかったものの、当初現況値 (87%) より増加しており、老朽化施設の改築・更新等による公園利用環境の向上が図られたことにより満足度が増加した結果となった。				
			中間実績値	88%						
		指標③ (対象2公園の合計入園者数)	中間目標値	4万人	目標値と実績値に差が出た要因	白山ろくテーマパークの河合・下野地区では、吉岡、吉野園地 (整備済) との一体的な整備を進めており、その効果として公園全体の魅力が高まり、入園者数が増加した要因となった。				
			中間実績値	5万人						
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)										
3. 特記事項 (今後の方針等)										